

JIGSAW

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

JIG-SAW株式会社

2026年3月24日

# BUSINESS & MARKET

ビジネスモデル及び市場環境

主軸事業：データコントロールサービス

Cloud・IoT等のあらゆるインターネットデータコントロール  
(基盤オペレーション・マネジメント・サポート)



エージェントAIによる完全自律制御への進化  
超省力化・完全無人化・完全AI化

+

IoTマーケット  
(あらゆる機器への展開)

# データコントロール（分類別）

## AI制御データコントロール

- エージェントAIを実装したデータコントロール基盤でのAIによるデータコントロール
- センター型の既存事業モデルにおいて収集した膨大なBig Dataを基にした生成AIによる制御サービス
- 生成AI制御クラウドセキュリティSaaSおよびオペレーションサービス

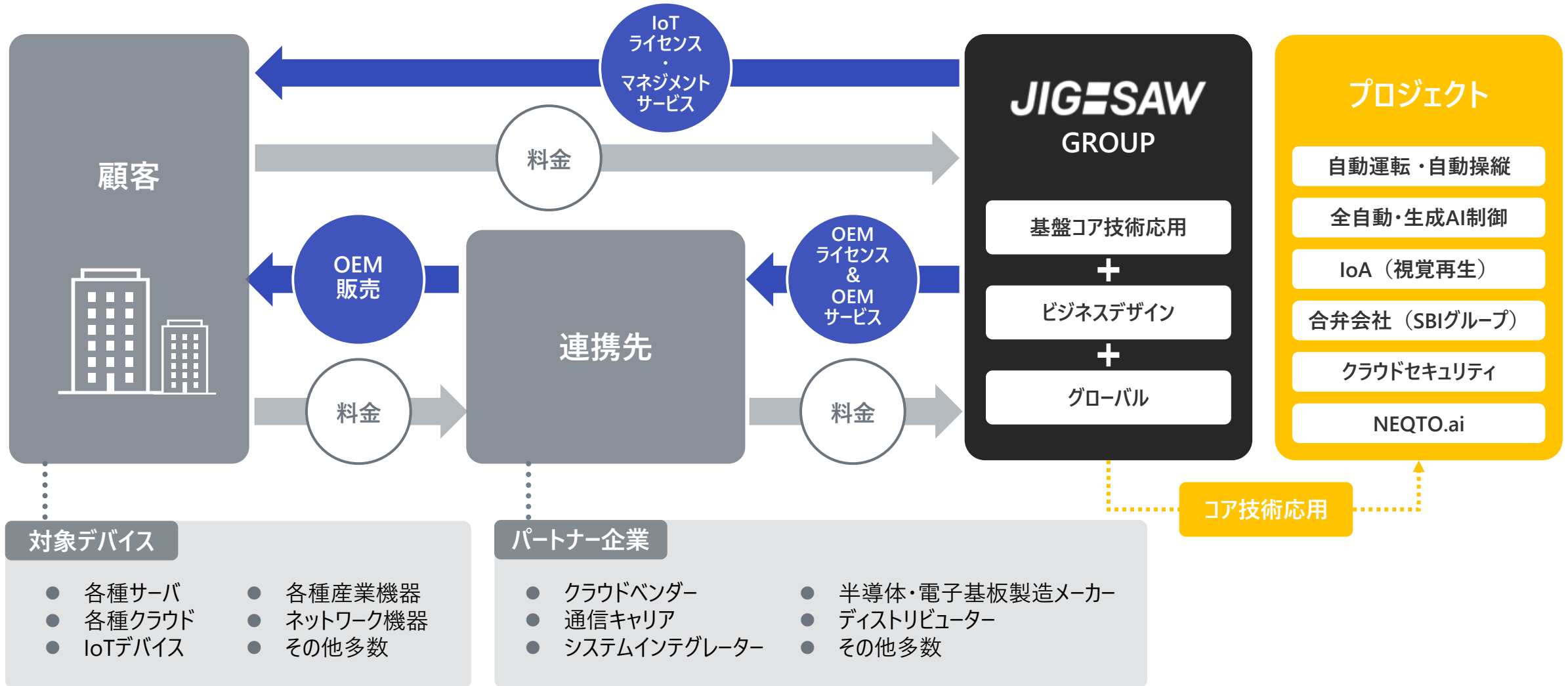
## IoTグローバルデータコントロール（NEQTO.ai）

- 北米・欧州・アジア地域を対象にした多様なハードウェア・機器群へのIoTデータコントロール
- バッテリー不要のEn-Ocean、Home IoT標準通信規格（Matter）へのオペレーション提供
- 建設機械分野における自動運転のライセンス提供およびIoTデータコントロール・IoT管理・オペレーション
- JIG-SAW 北米のTCC（Toronto Control Center）でのデータコントロールサービス

## クラウド/インダストリー別データコントロール

- ユーザーのシステムオペレーション・サポート部門切り出しモデル（カーブアウト戦略）
- 合併事業を軸にした金融業界向けオペレーションサービス

# データコントロール事業のビジネスモデル



# 2026年度のJIG-SAW

## 44四半期連続増収と確実な利益、そして継続的な先行投資

上場以降の過去11年間、44四半期連続で過去最高の月額課金売上のプラス成長（前年同期比較）をしており、既存事業から創出される継続的かつ着実な事業利益を毎年度確保・投資源泉とし、来るべき壮大なIoT化と生成AIモデルによるデータコントロール時代に向け、**高い成長への着実な取り組み**とともに、**生成AIを軸にした自動オペレーションサービスの開始、自動運転ソフトウェア&オペレーション及び米国IoTサービスの売上貢献開始、各種SaaSサービス投入を引き続き実施**してまいります。

## EXG ↗（Exponential Growth：指数関数的な成長）へ

現行既存事業であるデータコントロール事業における膨大なハンドリングデータをベースにした**エージェンティックAIサービスのいち早い市場投入**と、**グローバルIoTサービスの売上貢献、ユーザー部門切り出しモデル（カーブアウト）**を一気に進めてまいります。

## EXG ↗をより一層高いレベルで実行していくための先行投資と新事業開発

IoT分野においては、すでに当社のIoTコア技術が各国で高く評価されており、北米でのビジネスが2026年度から実際の売上数字に繋がる動きになります。事実、**北米において生成AIモデルのIoTデータ処理についても、すでにテスト段階での参画企業が100社を超えており、**欧米での展開を加速します。また、自動運転ソフトウェアライセンスの商用化／ビジネス拡大等も一気に推し進めて参ります。

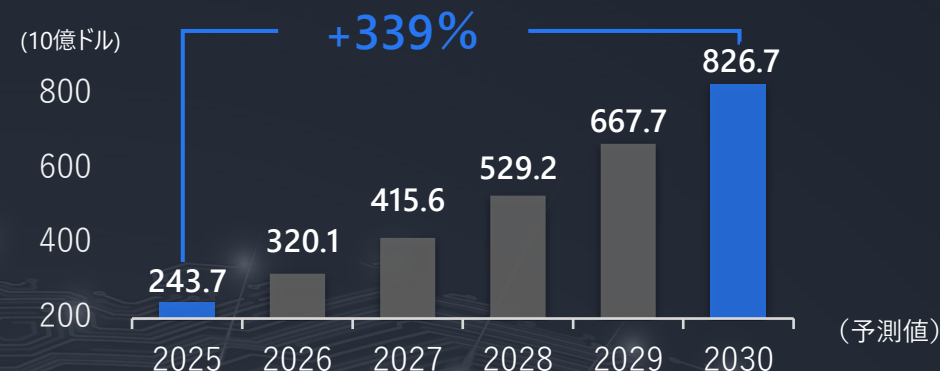
# 当社がターゲットとする市場の規模

## 世界の産業用IoT市場規模予測



※Source : Straits Research 「産業IoT市場 サイズと展望 2025-2033」

## 世界のAI市場規模 (売上高)



※Source : 総務省「令和7年版 情報通信白書」

## 世界のパブリッククラウドサービス市場規模 (売上高)



※Source : 総務省「令和7年版 情報通信白書」

# 当社がターゲットとするマーケット規模（含予測統計）

## IoT-AIデータコントロール・画像処理・自動運転

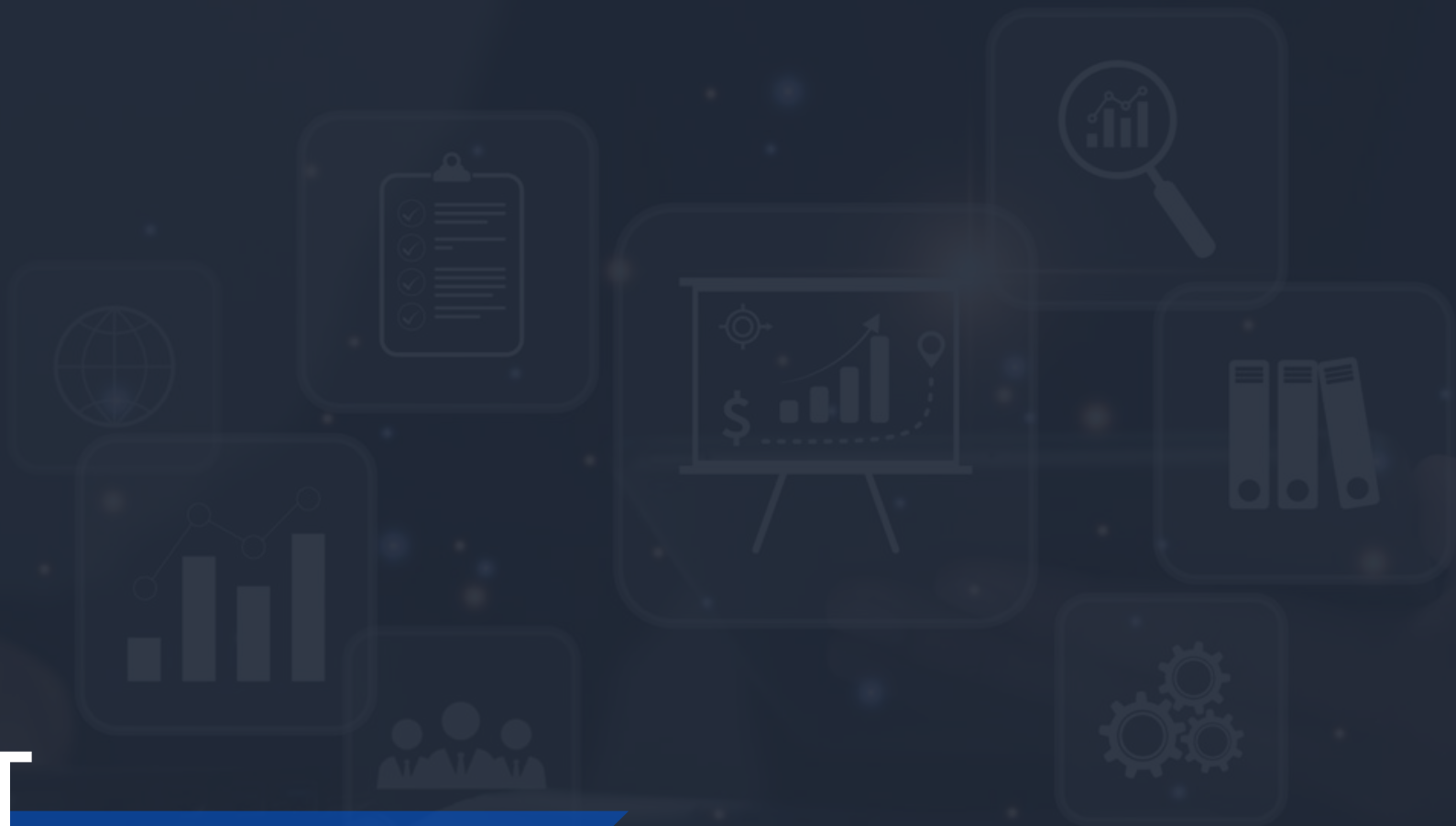
世界の産業用IoT市場規模	年平均成長率27.2%	2025年の2,436億9,000万ドルから2033年に4兆7,183億8,000万ドル	※Straits Research「産業IoT市場 サイズと展望 2025-2033」
世界のIoTプラットフォーム市場規模	年平均成長率13.2%	2024年の115億ドルから2033年に351億ドル	※Emergen Research Report（2025年11月17日）
世界のIoTデバイス数		2024年の420億4,000万台から2027年に583億9,000万台	※総務省「令和7年度 情報通信白書」
日本のIoTデバイス市場規模	年平均成長率18.6%	2022年の922億ドルから2031年までに4,280億ドル	※Panorama Data Insights Ltd. Report（2025年9月10日）
日本のIoTセンサー市場規模	年平均成長率36.8%	2025年の15億ドルから2034年に248億ドル	※IMARC「日本のIoTセンサー市場規模 2026-2034年」
世界のエッジコンピューティング市場規模	年平均成長率34.1%	2025年の186億4,000万ドルから2034年までに2,674億2,000万ドル	※Fortune Business Insights Report（2026年1月19日）
世界のAI市場規模（売上高）		2023年の1,359億ドルから2030年には8,267億ドル	
世界の生成AI市場規模		2023年の205億ドルから2030年には3,561億ドル	※総務省「令和7年版 情報通信白書」
日本のAIシステム市場規模（支出額）		2024年の1兆3,412億円から2029年には4兆1,873億円	
世界の半導体市場規模	年平均成長率10.6%	2025年の5,980億6,000万ドルから2034年には1兆4,770億6,000万ドル	※Fortune Business Insights Report（2026年1月19日）
世界の産業用自律車両市場規模	年平均成長率17.7%	2023年の576億ドルから2032年には2,501億ドル	※WISE GUY REPORTS Report（2025年12月23日）
世界の画像認識市場規模	年平均成長率15.2%	2025年に585億6,000万ドルから2034年までに2,127億7,000万ドル	※Fortune Business Insights Report（2026年1月19日）

## マネージド／クラウドサービス・データセンター・セキュリティ

世界のマネージドサービス市場規模	年平均成長率14.8%	2025年の3,304億ドルから2034年までに1兆1,182億ドル	※Fortune Business Insights Report（2026年1月19日）
世界のクラウドマネージドサービス市場規模	年平均成長率11.2%	2024年の595億ドルから2033年には1,712億ドル	※IMARC「クラウドマネージドサービス市場レポート（2025年～2033年）」
日本のマネージドサービス市場規模	年平均成長率8.5%	2025年の179億ドルから2034年には373億ドル	※IMARC「日本のマネージドサービス市場レポート（2026年～2034年）」
世界のマネージドITインフラサービス市場規模	年平均成長率9.3%	2025年の1,285億3,000万ドルから2030年には2,006億8,000万ドル	※（株）グローバルインフォメーション「マネージドITインフラストラクチャサービス市場シェア分析、産業動向と統計、成長予測（2025年～2030年）」
世界のパブリッククラウドサービス市場規模（売上高）		2023年の6,319億ドルから2029年には1兆8,060億ドル	※総務省「令和7年版 情報通信白書」
日本のパブリッククラウドサービス市場規模（売上高）		2024年の4兆1,423億円から2029年には8兆8,164円	
世界の予知保全市場規模	年平均成長率31.6%	2023年の75億ドルから2032年には888億ドル	※Straits Research Report（2024年7月）
世界の設備保全管理システム市場規模	年平均成長率11.7%	2024年の13億2,000万ドルから2029年には22億4,000万ドル	※（株）グローバルインフォメーション「CMMS（設備保全管理システム）の世界市場レポート 2025年」
世界のデータセンター市場規模（売上高）		2023年の3,728億ドルから2029年には6,241億ドル	※総務省「令和7年版 情報通信白書」
日本のデータセンターサービス市場規模（売上高）		2023年の2兆7,361億円から2028年には5兆812億円	
世界のサイバーセキュリティ市場規模	年平均成長率13.8%	2025年の2,189億8,000万ドルから2034年までに6,993億9,000万ドル	※Fortune Business Insights Report（2026年1月19日）
日本のサイバーセキュリティ市場規模	年平均成長率19.4%	2025年の1兆300億円から2030年までに2兆5,000億円	※（株）xenodata lab. 「サイバーセキュリティ業界の2030年AIレポート」（2025年9月25日）

# HIGHLIGHT

業績ハイライト



具体的な成長戦略	進捗状況
<b>ビジネス拡大及びグローバル化 キー企業との提携・協業</b>	<p><b>IoT-AIデータコントロールのビジネス拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>IoTデータを即時に可視化できるAIダッシュボード NEQTO.ai を正式リリース（2025年10月）</li><li>Advanced Water社が「JIG-SAW NEQTO.ai」導入で倉庫監視を大幅に効率化（2025年11月）</li><li>AI×IoTの相互運用性とedge領域でのイノベーション加速を目的にEnOceanアライアンスへ加盟（2025年12月）</li></ul> <p><b>既存取引拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>Google Cloud Partner Advantageスペシャライゼーション認定を取得（2025年1月）</li><li>次世代システムマネジメントサービス「JIG-SAW OPS」をリニューアル（2025年4月）</li><li>IoT製品の適合性を可視化する「JC-STAR」の適合ラベル取得（2025年5月）</li></ul> <p><b>各種プロジェクトの進展</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>自動操縦標準機開発プロジェクトに不動テトラと前田道路が参画（2025年1月、12月）</li><li>NEW VISION技術に共同で取り組むフェロー富田浩史岩手大学農学部教授の研究室が国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のD-Globalプログラムに採択（2025年10月）</li></ul>
<b>ソフト(エンジン)の進行</b>	<p><b>各種プロジェクトの関連技術を知的財産化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>画像生成AIの強化に必須な「コンピュータビジョン技術」が日本及び米国にて特許取得（2025年3月、10月）</li><li>複数の建設機械の自律的な施工通信技術を、日本にて特許取得（2025年10月）</li><li>動物行動解析分野における「AI算出によるベクトルデータをベースとしたアルゴリズム・システム」が米国にて特許取得（2025年11月）</li></ul>
<b>強固な既存事業の利益を ベースとした将来に向けた投資</b>	<p><b>積極的な将来投資を継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>研究開発・販売促進・人的資本投資・グローバル展開のための先行投資を実施、前年同期と比較し約63,000千円増加</li></ul>

## 売上高推移

## 上場以来過去最高の月額課金売上のプラス成長



※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を2022年度から適用しており、2021年12月期の売上高については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

# 研究開発費推移

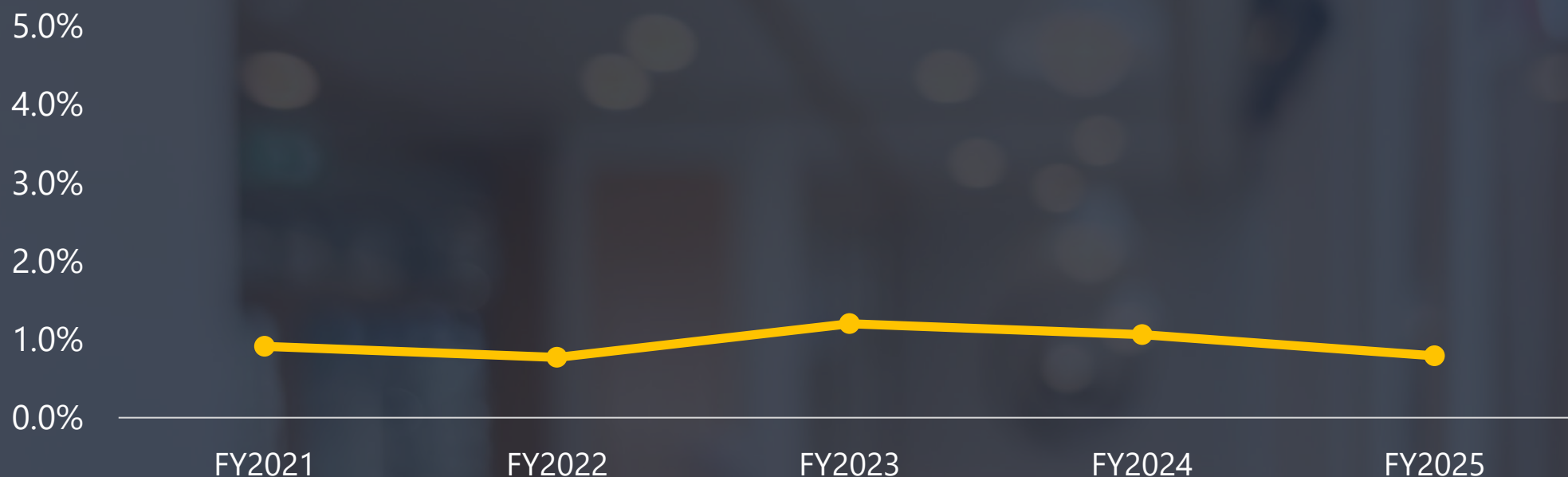
研究開発・販売促進・人的資本投資・グローバル展開のための**先行投資**に加え、  
2024年から2025年にかけての東京本社移転・統合を行いながらも**営業利益は堅調に推移**



※研究開発は主にAI、自動運転、再生医療分野など

# 解約率推移

低水準の解約率を維持し、継続的な収益モデルを実現



※解約率：既存契約金額に占める解約に伴い減少した金額の割合

# GROWTH

成長戰略

# 売上拡大（2026～）

## データコントロール事業拡大

- 既存取引拡大（**完全リカーリングモデル**）  
生成AI基盤等への投資によるインターネット・インフラ基盤は拡大の一途  
Amazon Web Services(AWS)・Google Cloud・Microsoft Azureをはじめとするパブリッククラウドマーケットも一層の拡大
- **エージェントAIサービス投入**
- 新マーケット獲得・拡大  
**顧客運用部門の切り出しモデル**（カーブアウト）開始  
合併会社：地銀等を軸とした金融セクター案件、欧州・アジア案件、北米データコントロールセンター業務拡大予定
- 主要パブリッククラウド管理サービスの業容拡大  
管理取扱額が引き続き約17%増加（2025年度実績）

## IoTグローバルデータコントロールサービスの売上寄与

- IoTデータAIコントロールサービス  
生成AI制御によるIoT機器・設備のリモート自動監視・自動制御・自動復旧・自動更新需要の取り込み（NEQTO.ai）
- IoTライセンス（完全ストック型ビジネス）  
組込IoTソフトウェア（NEQTO／日・米・中・台湾で特許取得済）を多種多様な機器・設備にライセンス提供

## 自動運転 & データコントロールビジネスの売上寄与

- 自動運転ソフトウェアの統合モデル  
ソフトウェアライセンスおよびIoTエンジン（NEQTO）+ データコントロールの統合サービス

# 営業収益拡大

## Auto Sensing & Auto Control by AI

エージェントAI・ソフトウェア化・無人化による**営業利益率大幅向上**へ

### 統合型生成AI自動制御プラットフォーム

- 生成AI内蔵型自動制御独自プラットフォームローンチ
- 生成AIによる業務処理とサービス化

全業務が対象

従来組織・ルーティン業務消滅

自動処理・生成AI処理・無人化ソフトウェア群の平行開発

# 保有コア技術の応用 & ビジネス化

既存売上大幅拡大

オーガニック成長



JIG-SAWの独自テクノロジー

A&A : Auto Sensing & Auto Control

エージェントAI化  
+  
全自動・完全自律化

ユーザー運用部門  
切り出し  
(カーブアウト)

自動運転  
ソフトウェアライセンス  
&  
データコントロール

グローバル  
IoT-AIデータコントロール  
&  
ライセンス

新規

# これからのJIG-SAW

## 既存事業の継続成長

- エージェントAIモデル投入によりマーケットはより一層拡大
  - グローバルマーケット拡大を加速：売上寄与
  - カーブアウト（切り出し）向けのサービスモデル創出
- ※（業績条件付株式報酬制度（PSU）業績条件クリアに向けて加速）

## 超高収益なモデルへ進化

- 自動化・AI制御による営業利益率大幅向上
- グローバルIoTビジネス（ライセンスモデルと生成AI制御を軸にしたIoTデータコントロールモデル：NEQTO.ai）によるビジネス獲得

## 自動運転 + IoTデータコントロール統合サービス開始

- 世界初の取り組みを通じた自動運転 + IoTパッケージの展開

# 既存事業 + 新規事業 成長イメージ



# 引き続き高成長への先行投資継続

## エージェントAI：膨大なデータ処理の自動制御

- ・ 戦略的生成AI制御部隊の大幅増強
- ・ 膨大なIoTデータハンドリング統合型自動制御システム：Orchestraローンチ
- ・ グローバルモデルであるNEQTO.aiへの投資継続

## IoTデータコントロール拠点設置に向けた大型投資

- ・ グローバル拠点設置と海外オペレーションの体制強化・投資

## IoTエンジン研究開発およびハードウェアバンドル・ライセンスビジネス開発投資

- ・ IoTソフトウェア「NEQTO」内蔵ハードウェア活用によるIoTライセンス&データコントロール

## 自動運転への研究開発投資

- ・ 2026年度、ソフトウェア搭載建機の売上寄与（当社プロジェクトにほぼ全ての主要ゼネコンが参画）

## 再生医療分野へ継続的な研究開発投資

- ・ 2029年の治験を視野

# 自動運転プロジェクト：2026年売上寄与



	参画企業		TOPICS
2020	2月 株式会社大林組 6月 株式会社安藤・間 6月 大成建設株式会社	2020年2月 2020年8～9月	大林組 5Gネットワーク配下における他の遠隔制御建機との連携 大成建設 独自の協調システムへ接続し、他の建機との協調制御
2021	1月 株式会社熊谷組	2021年2～3月 2021年9月	大林組 5G配下での他遠隔制御建機との連携による実施工の効率化検証 熊谷組 自律走行性能の精度検証
2022	6月 清水建設株式会社	2022年12月	A社 A社独自の協調システムとの接続実験
2023		2023年9月 2023年11～12月	国土交通省 自動施工機械・要素技術サブワーキンググループ 建設機械施工の自動化・遠隔化技術に係る現場検証 大林組 建設発生土受入地整備工での自動化自律化運転の実証施工
2024	10月 株式会社フジタ	2024年1月 2024年12月	安藤ハザマ 酒井重工業実験フィールドでの安藤ハザマ製協調システムとの接続実験 酒井重工業 ・土木研究所 【共同研究】 自動・自律化高度な遠隔操縦支援システムの開発と検証
2025	1月 株式会社不動テトラ 12月 前田道路株式会社	2025年3月～4月 2025年11月	フジタ 国道2号・玉島笠岡道路に無人ローラー導入（路面工事で全国初） 酒井重工業 共同出願の「複数の建設機械の自律的な施工技術」が特許登録 住友建機

# ARMsの事業概要

## サービス概要

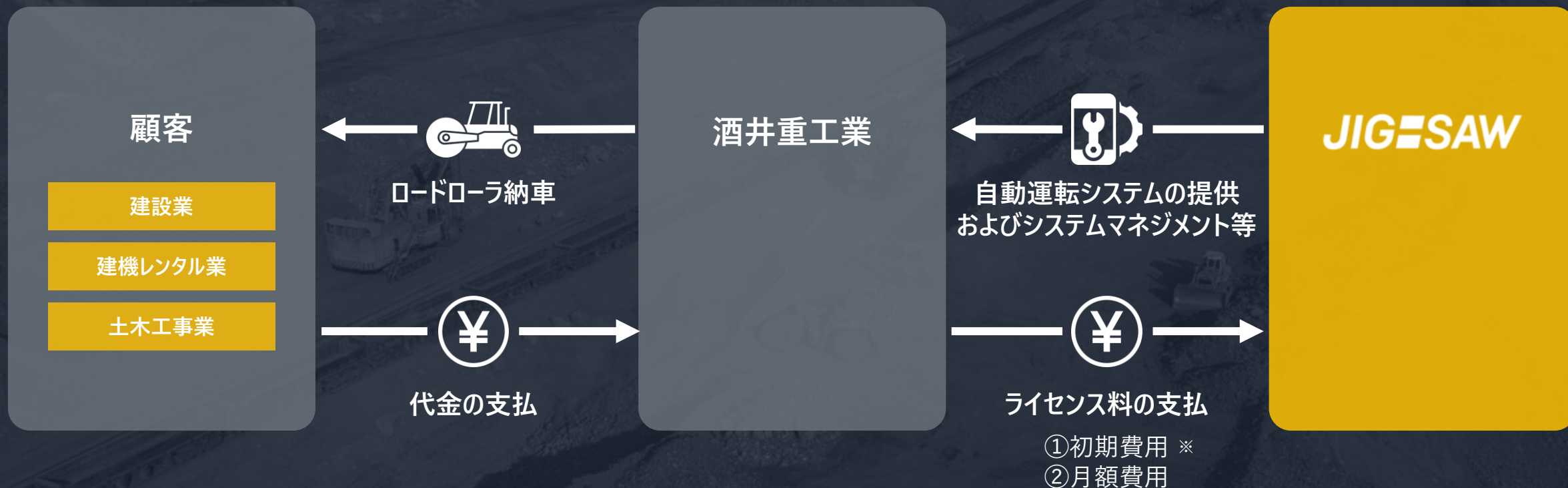
建設現場におけるロードローラでの締固め作業を  
ソフトウェアによって自動化・省人化するサービス



JIG-SAWは  
ソフトウェアによる  
自律走行・操縦システムの設定  
及びマネジメントを提供

# ARMs ビジネスモデル

自動運転システムの提供に加え、システムマネジメントを組み合わせたサブスクリプション収益モデル

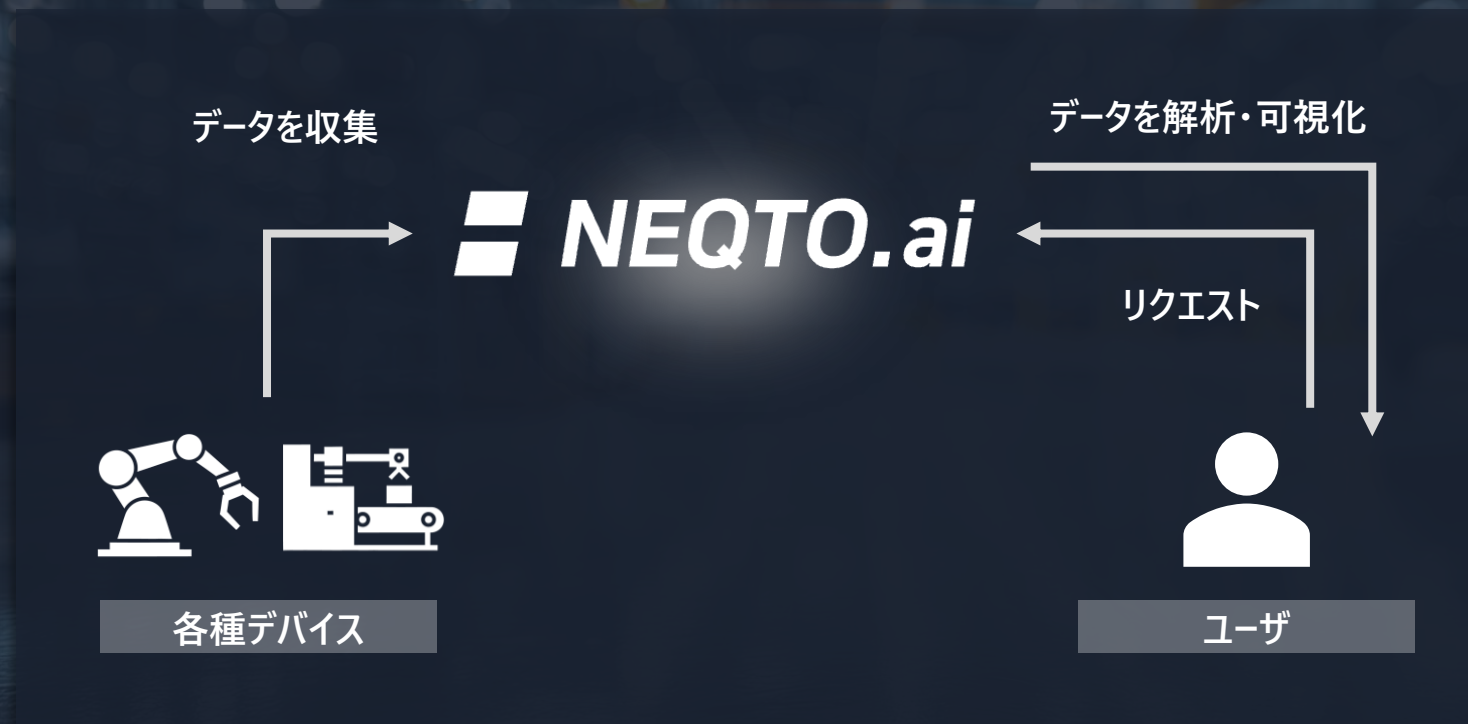


※初回契約期間で按分計上しております

# NEQTO.aiの事業概要

## サービス概要

100%ノーコードで実現するAI搭載IoTダッシュボードプラットフォームで  
データ取得から可視化、通知、現場運用まで、すべてをシームレスに統合するサービス



**デバイス・オートパーシング**  
配線・設定なしで即座に接続完了



**自動ビジュアライゼーション**  
データが瞬時にウィジェット化



**Auto-Intelligence**  
アラート・インサイト・ワークフローを自動生成

# NEQTO.aiのビジネスモデル



## モジュール戦略

- ・Time-to-Value短縮
- ・パートナー拡大
- ・高利益率収益

## 毎月計上される売上

- ・月額課金（サブスクリプション）
- ・多数のプランに加え、オプションによるアドオン課金もあり

Tier 1	\$99～\$199
Tier 2	\$399～\$499
Tier 3	\$1,200～\$3,000

# IoE ( Internet of Everything ) / IoA ( Internet of Abilities )

## IoE・IoA

当社技術の応用範囲：

あらゆる物質、細胞までカバーするIoE (Everything)と人間の能力自体を拡張させるIoA (Abilities) までを視野に入れています  
JIG-SAWが取り組む「NEW VISION」は、まさにIoA (ヒューマンオーグメンテーション) の取り組みの一つです

## 人間の五感拡張へ

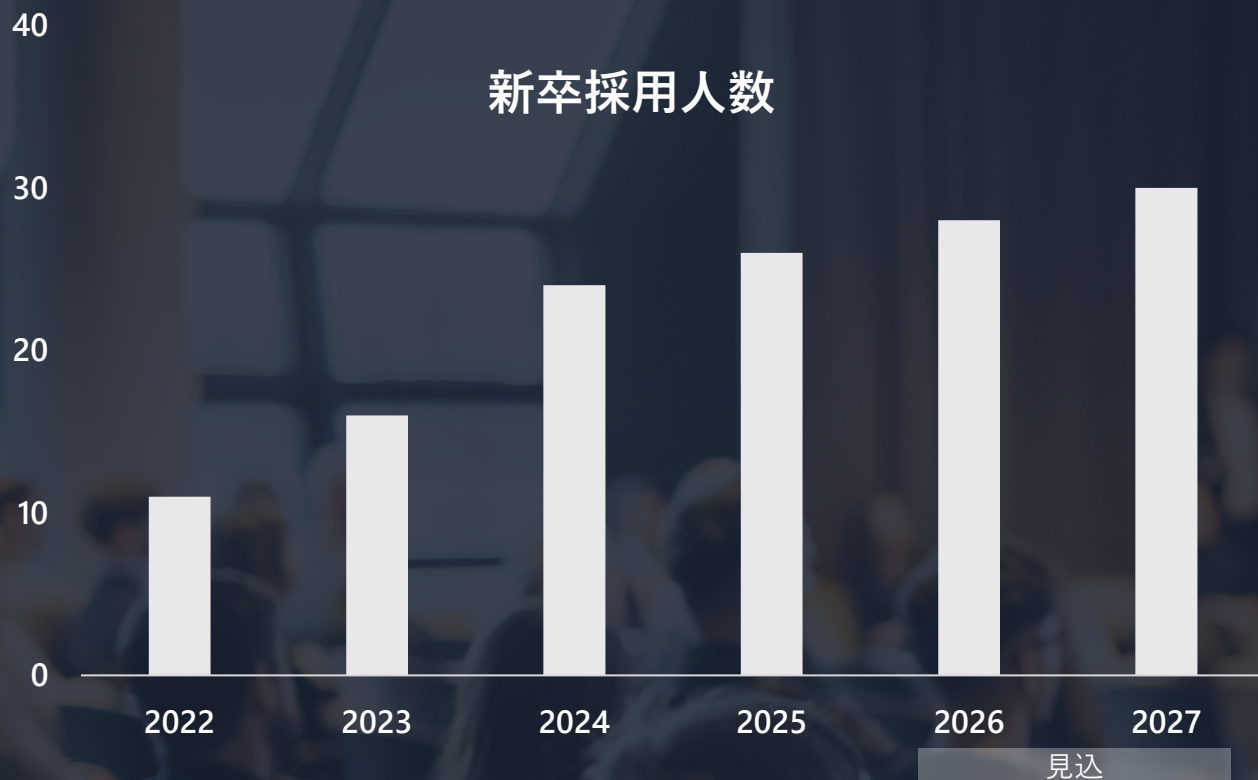
「NEW VISION」は、人間の視覚 (知覚) をソフトウェアによって拡張することを念頭におくプロジェクトです  
テクノロジーと人間の実質統合により、いわゆる人間の五感 (視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚) の拡張を目指すものです

## 視覚再生「NEW VISION」

ソフトウェア技術で人間の視覚能力 (知覚) の拡張を実現  
日本、米国、欧州5か国、中国、香港及び台湾においてソフトウェア+グラスの特許登録完了  
日本及び米国において、正確な視覚検査システムの特許登録完了

臨床段階の取り組み (2029年を予定) に向け引き続き独自アルゴリズムの研究開発を大学研究室と共同で継続中  
欧米にてプロジェクト化予定

# 採用・育成戦略の強化



## 採用・育成体制の強化

- ・将来の成長に向けて若手人材の採用・育成に注力
- ・インターンシップを早期開催することで優秀な学生へアプローチ
- ・2025年度より高卒採用を開始

## 旧来の年功序列にとられない人事戦略

- ・業務成果だけでなく業務プロセスも重視
- ・年齢や在籍年数にとられず適切に評価
- ・新卒社員であってもストック・オプションの付与対象

## 初任給の引き上げ

- ・新しいリーダーシップの育成を促進

# 2026 経営方針・具体的な成長戦略サマリー

経営方針

世界の隅々までつながるデジタルユニバース時代の  
中心の1社に位置する

具体的な  
成長戦略



データコントロール事業  
の拡大・グローバル化

P3-6, 11, 16-21



グローバルのキー企業  
との提携・協業

P4-6, 11, 16, 19, 21, 26



ソフト（エンジン）が  
ハードのビジネスをリード  
OEMサービス

P4-6, 16-19, 21-27

将来に向けた投資を継続（前年度以上）

P6,11,13,21,27-28

## 市場動向におけるリスク

当社データコントロール事業は、インターネットサービスやインターネットとつながる全てのモノが快適かつ安定稼動するため、全てのモノを繋ぎ、制御・運用・管理（コントロール）していくために、自動検知 & 自動制御（A&A）をコアコンセプトとしたサービスを主力としております。当社グループのターゲットとするIoT市場及び生成AI市場は、今後もさらなる拡大が予測されておりますが、今後、市場拡大ペースの急速な鈍化等予期せぬ要因により、顧客企業におけるシステム保守運用の外部委託の縮小や内製化若しくはニーズの変化等、発展途上段階にある市場の成長が阻害される場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

（発生可能性：低 / 発生時期：中長期 / 影響度：大）

**対策** 当社グループは、今後も市場の成長傾向は継続すると見込んでおりますが、引き続き国内外の市場動向や経済情勢をモニタリングするとともに、上記のような要素の変化を捉え、市場・経済情勢に応じた適時適切な経営判断に基づく柔軟な対応により、当該リスクの低減に努めております。

## 不測の災害・事故・重大な伝染病・感染症の拡大等に伴うシステムトラブル、調達不備等についてのリスク

当社グループの事業は、停電、ネットワークの故障・障害等の影響を受けやすく、当社のネットワークインフラについては、地震の影響を受けにくい札幌を中心に整備しておりますが、半導体をはじめとするIoT関連機器・資材の安定供給並びにインターネット接続環境の安定した稼働が当社グループ事業の大前提であると認識しております。そのため、予期せぬ自然災害や事故、伝染病や感染症の流行等、ソフトウェアの不具合、ネットワーク経由の不正アクセスやコンピュータウィルスの感染、停電・電力不足、半導体や電子部品の調達不足・遅延など、様々な問題が発生した場合には、サービスの安定的な提供が困難となり、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

（発生可能性：低 / 発生時期：不明 / 影響度：大）

**対策** 当社グループは、上記のような自然災害、事故、システムやネットワークのトラブル等に備え、常時データバックアップやセキュリティ強化、調達先の多様化、対策マニュアルや事業継続計画（BCP）の整備・運用、海外拠点を含む多拠点からの安定性の高い充実したサービスの提供ができる体制を構築するなど、当該リスクの低減に努めております。また、重大な伝染病・感染症の流行に備え、複数拠点への人員の分散や疾病対策の周知・徹底・運用などにより、当該リスクの低減に努めております。

その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

用語	説明
OPS	サーバ・クラウド運用のみならず、あらゆるデバイスや機器を対象とする当社マネージドサービス（Operation Service）
OEM	「Original Equipment Manufacturing」の略称で、製造メーカーが他社ブランドの製品を製造すること
SaaS	「Software as a Service」の略称で、「サービスとしてのソフトウェア」を意味する
生成AI	コンピュータプログラムが大量のデータを学習し、新しいコンテンツを自動で生成する技術
IoT	「Internet of Things」の略称で、従来インターネットに接続されていなかった様々なモノが、通信機能を持つことでインターネットに接続され、相互に情報交換を行う仕組みのこと
IoE	「Internet of Everything」の略称で、IoTで接続される「モノ」だけでなく、「人（ヒト）」、「データ（情報）」、「プロセス（業務や仕組み）」のすべてがインターネットにつながり、相互に連携する広範な概念
IoA	「Internet of Abilities」の略称で、IoTをさらに拡張し、インターネットに繋がることで人間の「能力（Abilities）」自体を強化・拡張するという概念
ヒューマンオーグメンテーション	AIやIoT、ウェアラブルデバイスなどのテクノロジーを活用して、人間の身体能力や認知能力を本来のレベル以上に向上させること
JC-STAR	IoT製品が具備するセキュリティ機能として満たすべき水準にあることを確認するための制度
EnOceanアライアンス	ビルオートメーションやスマートホームなどで利用される、自己発電型（エネルギーハーベスティング）の無線技術の普及と標準化を目的とした企業コンソーシアム
カーブアウト	ユーザー顧客のノンコア事業（運用事業）の当社への切り出し
パラレル開発	要件定義や設計といった上流工程と並行して、複数の開発者やチームがそれぞれ異なる機能やモジュールのプログラミングを同時に進める開発手法
Time-to-Value	顧客が製品やサービスを導入してから、その投資に見合う具体的な価値や利益を実感し始めるまでにかかる時間のこと



**Change the Game  
&  
Change the World**

# 本資料の取り扱いについて

本発表に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。将来の実際の業績や財務状況は、予測とは大きく異なる可能性があります。

本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。個別契約やビジネス等に関する情報につきましては、秘密保持契約等に基づき原則非開示となりますが、開示が可能となった段階で適時適切にニュースリリース、適時開示を行ってまいります。IR取材や決算説明会等におきましても、上記と全く同様の対応をしております。

本資料の更新は、本決算の発表以降、3月末までに開示を行う予定です。